

連携

第53号

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます

新年のご挨拶

院長 小林 光樹



明けましておめでとうございます。2015 年もひきつづき栗原中央病院と皆さまの間で、よりスムーズな連携が築けますよ

うに職員一同心からお願い申し上げます。

さて、本年は 2015 年、いよいよあと 10 年で 2025 年を迎えることとなります。1947～1949 年生まれの人たちは団塊の世代と呼ばれ、2015 年に 65 歳以上の前期高齢者になります。いわゆる「2015 年問題」です。そして、もう 10 年後の 2025 年には、団塊の世代が 75 歳以上となるため、75 歳以上人口の割合は、2025 年には 18.1%に上昇することになります。老後の健康の不安などから施設への入所を希望する高齢者の方も、逆に在宅医療や介護のサービスを利用しながら、地域における生活を継続したいと望む高齢者の方も、両方の方がいると思います。栗原市では、将来の人口動態予測によると、全体の人口は依然として縮小傾向が続きますが、65 歳以上の高齢人口自体は横ばいか 2020 年をピークとして漸増

傾向が続き、以降は少しずつ減少するようになります。

1982 年から 2010 年までの疾病構造の変化を見ると、高齢化の影響から悪性新生物、高血圧症、脳卒中、糖尿病が増加しています（厚生労働省患者調査から）。今後、この傾向とともに、筋骨格系や尿路性器系疾患、眼及び付属器疾患の増加も予測されています。この調査を基にした疾病構造推計によると、2025 年には手術患者数は 1.3 倍、短期入院患者数は 1.7 倍、慢性期入院患者数は 2.5 倍程度に増加するということです。

このような状況の中で、栗原でどのように連携・協力を行っていくのかが、問われています。包括的なケアを行うためには医療機関相互、あるいは医療機関と介護施設の間の連携がより欠かせないものになっていくと思いますし、それを地域内のみならず地域間で密に取っていくことが重要になることが予測されます。

栗原中央病院は、そうした連携の環を強固に結びつけていく働きをしたいと思っています。

栗原中央病院 出前講座

～みなさまのもとへ伺います～

栗原中央病院の出前講座は、地域の自治会や各種団体からのご依頼を受け職員を派遣しております。これからも地域のみなさまのもとへ伺い、安心して暮らせる地域づくりに貢献して参ります。

地域の輪の中へ



築館佐野地区 健康講話会



小林病院長は「栗原中央病院の紹介」、石田副院長は「ロコモ体操」についてお話しました

若柳新田地区 お茶っこ会



リハビリテーション科 石田先生による「ロコモ体操」のお話でした。関西弁の講話に参加者のみなさんは終始大笑いでした

音楽に合わせてロコモ体操♪



石田副院長



浅田看護師



栗原市築館地区民生・児童委員協議会



小林病院長

若柳南二又地区 お茶っこ会

栗原市築館・志波姫地域居宅介護支援事業連絡協議会定例研修会

平成26年度 栗原中央病院出前講座実績一覧

平成27年1月現在

各種団体	栗原市築館地区民生・児童委員協議会	栗原市若柳	内谷川地区 お茶っこ会
	栗原市社会福祉協議会 第2回わかやなぎ福祉のつどい		元町3区 健康講話会
	栗原市築館・志波姫地域居宅介護支援事業連絡協議会定例研修会		有賀地区 健康講話会
	栗原生活衛生組合協議会（理容美容クリーニング業衛生講習会）		峯地区 お茶っこ会
	栗原市社会福祉協議会 職員定例会議		三田鳥地区 健康講話会
	栗原市健康祭り		片町1区 お茶っこ会
	栗原市社会福祉協議会 築館地区福祉のつどい		新田地区 お茶っこ会
	栗原市農業者年金加入者協議会会員研修会		南二又地区 お茶っこ会
	栗原市社会福祉協議会		並柳自治会 健康講話会
	志波姫地区高齢者生きがい活動支援事業「健康教室」		十文字自治会 健康講話会
	栗駒・鶯沢地区ケアマネージャー連絡会		
	栗原市築館各種女性団体連絡協議会「女性のつどい」	栗原市築館	佐野地区 健康講話会
NPO法人みやぎ身体障害者サポートクラブ サポートセンターころんぶす	栗原市栗駒	滝ノ原地区 お茶っこ会	

問い合わせ先は、地域医療連携室（0228-21-5330）となっております。皆様からのご依頼お待ちしております。ぜひご利用ください。

第8回 連携のつどい “よらいん” 開催 平成26年12月18日(木)

「感染予防の基礎の基礎-あなたも今日からマスク美人-」

寒くなってきますと、インフルエンザや感染性胃腸炎などが流行してきます。今回はこの時期にちなんで、「感染予防の基礎の基礎-あなたも今日からマスク美人-」と題し、正しいマスクのつけ方や手洗いのしかたについて講話とグループワークを行いました。



44名の参加者が6グループに分かれ、それぞれの事業所や施設の感染予防事情について意見交換をしました。

日常で何気なく使用しているマスクの効果や使用方法について、改めて“なるほど!”と思うことが多く、すぐに活用できる内容に参加者からは「基礎の基礎シリーズ、今後も続けてほしい」との声が多く聞かれました。



また“よらいん”ならではの楽しいイベントとして、当院職員がサンタさんに変身し参加者の皆さんと一緒にクリスマスじゃんけん大会を行い交流を深めました。



次回のよらいんは、理学療法士によるベッド上での寝返り・起き上がり・座位の基本的なポジショニングのお話です。ぜひご参加ください。



☆シリーズ☆

-その1-

地域連携を目指したリハビリテーション科のチャレンジ!

リハビリテーション科 副院長 石田 健司

本誌面を頂戴し、栗原中央病院のリハビリテーション科をご紹介します。当院のリハビリテーション科は、現在理学療法士9名、作業療法士4名、言語聴覚士1名、看護助手1名、医療事務1名、医師1名で構成されています。病院業務として、脳血管リハ・運動器リハ・呼吸リハ・がんのリハを中心に対応していますが、「地域包括ケアシステム」の導入の必要性が叫ばれている現在、地域との「連携」は、一層重要なテーマとなっています。



「地域包括ケアシステム」とは、介護が必要になった高齢者も、住み慣れた住宅や地域で暮らし続けられるように、＜医療・介護・介護予防・生活支援・住まい＞の5つサービスを、一体的に受けられる支援体制のことです。



当リハビリテーション科もその中であって、行政の方々と「連携」しつつ「地域包括ケアシステム」の一翼を担っていきたいと考えています。

次月号から4回にわたって、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の役割と地域との「連携」並びに医師の関わりについて述べていきます。

☆学会・研修会・論文発表☆



☆日本糖尿病学会第52回東北地方会 2014.11.8 一仙台市一

『多角的強化療法による顕性腎症の改善を腎組織像で証明し得た緩徐進行1型糖尿病の1例』

…吉越仁美¹, 赤井裕輝², 鈴木慎二¹, 木田真美¹, 佐藤修一¹, 小泉 勝¹, 坂元和宏³

内科1, 東北労災病院糖尿病代謝センター2, 大崎市民病院病理診断科3

『1型糖尿病患者と脾全摘患者において持効型インスリン2回注射からインスリンデグルデク1回注射へ切り替えた3症例』

…大内可成子¹, 鈴木慎二², 佐々布隆暁¹, 千田 敬¹, 若生健司¹, 吉越仁美², 木田真美², 佐藤修一², 小泉 勝³

薬剤科1, 内科2, 健診センター3

『2型糖尿病における二相性インスリンアナログ（ヒューマログ®zmix50注）の有用性の検討』

…木田真美

『栗原中央病院における糖尿病地域病診連携（第二報）』

…鈴木慎二¹, 木田真美¹, 吉越仁美¹, 佐藤修一¹, 小泉 勝²

内科1, 健診センター2

『糖尿病患者会 第一回イベント・ウォーキングを開催して』

…伊藤義博¹, 鈴木慎二², 木田真美², 太田浩貴³, 大内可成子⁴, 佐藤美智枝⁵, 蘇武文枝⁵, 古内冴子⁵, 小泉 勝⁶

栄養管理室1, 内科2, リハビリテーション科3, 薬剤科4, 看護部5, 健診センター6

『超高齢者糖尿病外来患者の臨床像 ー5年の違いは』

…小泉 勝, 佐藤修一, 鈴木慎二, 木田真美, 吉越仁美

『栗原中央病院における高齢者2型糖尿病の低血糖調査』

…佐藤美智枝¹, 鈴木慎二², 石母田由美子¹, 吉越仁美², 木田真美², 佐藤修一², 小泉 勝³

内科外来1, 内科2, 健診センター3

☆第42回日本磁気共鳴医学会大会 2014.9.18-20 一京都市一

『脂肪抑制併用 Dynamic 3D gradient echo (e-THRIVE)における解像特性の検討』

…吉田 礼¹, 町田 好男², 引地 健生¹

栗原中央病院1 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻2

☆一般社団法人日本超音波医学会第48回東北地方会学術集会 2014.9.21 一山形市一

『エラストグラフィによる治療後HCCの造影超音波断面決定』

…千葉崇宏



市民公開講座開催のご案内

日時：平成27年2月28日(土)

開場 13:00

講演 14:00~15:30

会場：エポカ21 清流の間 (栗原市志波姫)

演題：「地域でとりくむ緩和ケア」

～がんになっても安心して暮らせるまちをめざして～

講師：岩手県立中部病院

緩和医療科長兼地域医療科長兼地域医療福祉連携室長

星野 彰 先生

問合せ：栗原中央病院 地域医療連携室

0228-21-5330 (代表)



退職辞令



平成27年1月31日付け退職

栗原市病院事業管理者

小泉 勝

平成27年12月31日付け退職

内科部長 赤井 健次郎

平成27年1月31日付け退職

精神科部長 三由 幸治

お世話になりました



編集後記

寒中お見舞い申し上げます。今年も様々な機会をとおして、医療・保健・介護・福祉関係者の皆様と連携を深めて参りますのでよろしくお願い致します。

